

新基地建設反対名護共同センターニュース

マスクつけずに県民と濃厚接触する警備員



↑ゲート前の機動隊員は全員マスクとサングラスをしていますが、TEIKEIのガードマンは、一人もマスクはしていません。(3月2日午前9時頃)



安次富氏は「政府は月内にも地盤の設計変更を県に申請する。デニー知事は当然応じない。元副知事など逆流の動きがあるが、県民が団結して知事を支えることがいま最も重要だ。6月の県議選で与党を圧倒的に勝利させよう」と訴えました。

県議選で与党の圧倒的勝利を

キャンプ・シュワブゲート前では2日、約40人の県民が座り込み抗議行動を展開。立ちほだかる民間警備の帝国警備（TEIKEI）の職員数十人は、誰一人マスクを着用していません。ヘリ基地反対協の安次富浩共同代表や県統一連の瀬長和男事務局長が「コロナウィルスが大問題のなか、座り込み現場で県民と濃厚接触する警備員が一人もマスク着用しないのは常識外だ。防衛省は県民だけでなく警備員自身のためにも直ちに着用させるべきだ」と厳しく抗議し、要求しました。



警備員のためにも着用すべきだ。
機動隊員は全員着用なのになぜ？

軟弱データで防衛局に7項目の質問書 立石氏が現地調査と防衛局申し入れ

新潟大学名誉教授で地質学者の立石雅昭氏が、大浦湾の活断層調査で2月29～3月2日まで名護市の久志から安部にかけて10数ポイントの調査を行いました。その後立石氏は2日、沖縄防衛局へ軟弱データで質問書を提出しました。質問書は最大90mの軟弱地盤があるB27地点で、70m以下が「非常に硬い」とする防衛省の見解を疑問視。強度を判断する際、地盤の弱さを示すデータを除外しているなどと7項目を指摘しています。さらに立石氏は県政記者クラブで記者会見し、夕刻はQAB琉球朝日放送のインタビューに応じTV出演しました。

↑活断層の調査で崖の土を採取する立石氏(3月1日、名護市久志集落で)



立石氏

安和・塩川港での抗議続く

名護市安和の琉球セメント棧橋や本部町塩川港から土砂の搬出の抗議行動も不屈に続けています。(写真は2月27日安和棧橋入口で)



カヌー12艇 海上から抗議

新基地建設現場では2日、大浦湾側の「K8」「K9」護岸に安和港や塩川港から運搬された土砂を台船に積みかえ接岸、トラックが土砂を埋め立て区域に運んでいました。ヘリ基地反対協は、抗議船とカヌー12艇で海上から抗議活動を展開しました。(写真はK8護岸付近)



オール沖縄会議からのお知らせ！

- コロナウイルス感染の関係で「オール沖縄」から中止の連絡がありました。
3月7日(土)の県民大行動(キャンプ・シュワブゲート前)
3月9日(月)県の「抗告訴訟」第2回口頭弁論報告集会(城岳公園)
- 3月19日(木)のゲート前県民大行動は、感染の状況を見て判断します。